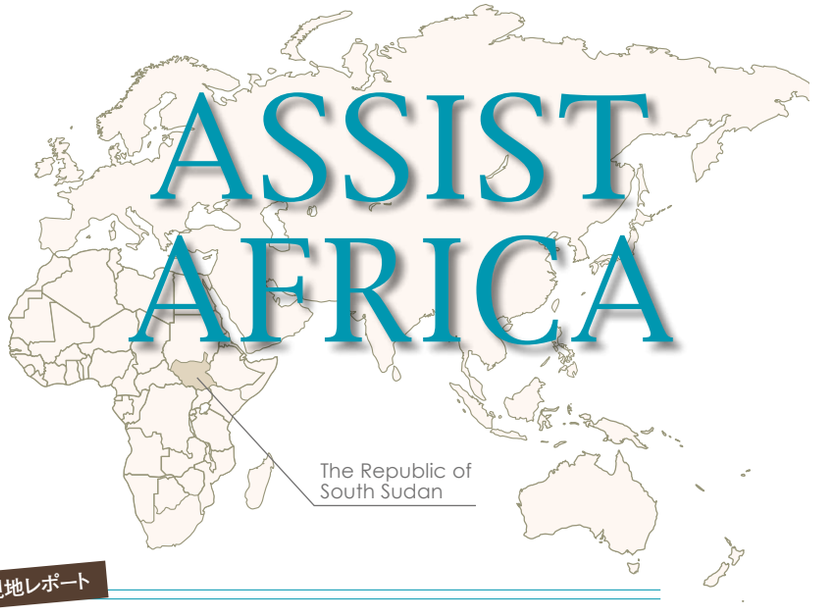
首都ジュバ市内の道



アシストアフリカ!

アフリカは今、世界でも最大規模の国内避難民と難民を抱える地域です。「アフリカ最大の難民危機」と指摘されるほどの事態にもかかわらず、その実情が日本に伝えられる機会は少なく、知るすべも限られています。日本から約1万km離れた大陸で、何が起きているのか。タウトク編集部では、南スーダン、ケニア、ウガンダで活動するNGOピースウィンズ・ジャパンの協力により、その現実の姿を伝えていきます。支援活動を続ける同スタッフの奮闘のレポートを紹介しつつ、アフリカが抱える問題を少しずつひもとき、少しでも身近な出来事だと感じられるようにしたい。

株式会社メディコムでは、読者の皆さんにタウトクを1冊(350円)購入いただくにあたり、その約1%である3円をアフリカの復興支援のために送金します。

「支援している」という高みに立った目線ではなく、積極的に関わり合いをもつことで現地の様子が気になるようになり、やがて世界で起こっているいろんな紛争や悲劇と、自分たちは決して無縁ではないことを肌で感じるための「3円」だと思っています。ぜひこの1%運動をご理解いただき、本誌連載にご注目ください。

PWJの携帯サイトはこちら!

世界各地で支援活動を続けるスタッフからの「現地活動ルポ」、最新のNEWSなどの情報が携帯からチェックできるようになりました!
左のQRコードからアクセスしてみて!
http://peace-winds.org/

タウトクでは毎号、アフリカの国内避難民・難民支援事業へ送金した金額=タウトクの販売部数×3円を読者のみなさんにお知らせします。

タウトク6月号の販売部数

5,051部×3円=15,153円

を支援金としてPWJを通じアフリカの国内避難民・難民支援事業に送りました。

peace winds JAPAN

月刊タウン情報トクシマ
タウトク
medicomm inc
株式会社メディコム
月刊タウン情報トクシマ編集部

ピースウィンズ・ジャパン現地レポート

南スーダン7回目の静かな独立記念日

2018年7月9日は世界で一番新しい国、南スーダン共和国の7回目の独立記念日でした。2011年7月、スーダン共和国の南部10州が、20年以上の南北内戦の後に包括和平に合意し、南スーダン共和国として分離独立しました。アフリカ大陸54番目の国家です。

しかし2013年以降、南部スーダン内で政治と民族対立が入り組んだ武力紛争が続いてきました。2016年7月にも大規模な殺戮が発生し、その後の治安悪化から、2017年の国外への難民数は150万人、国内避難民数は210万人にのぼります。人口の約半分が食糧難にあり人道危機は続いています。こうした中、2018年6月27日に大統領と元副大統領が「恒久停戦」を目指す新たな和平案に合意しました。直ちに国内の治安が好転するほど状況は単純ではありませんが、そんな中迎えた7回目の独立記念日の様子を首都ジュバ市に駐在するピースウィンズ・ジャパン職員、アルーナ・イブラヒム・ジャーがお伝えします。

左がピースウィンズ・ジャパン職員のジャー

皆さんは通常、独立記念日というと華やかなお祝いを思い浮かべるかもしれません。しかし、南スーダンでは過去3年間独立記念日の公式行事は行われず、今年も公式行事はキャンセルされました。政府は、人々が貧困にあえいでいる現状、国が内戦から脱出するまでは祝祭は難しいとしています。公式行事の自粛に賛成の人々からは、恒久的な平和がなければ行事をする意味がないと言う声が聞かれ、メディアでもそのような論調が見受けられます。こうして迎えられた独立記念日は治安や賑わい、どちらの面からも静かな一日でした。当日は祝日だったため、ジュバ市内のすべての商店は閉まり、開店していたのは、ガソリンスタンド、レストラン、病院と薬局のみでした。

閉まっているお店

一部の市民は自発的に、ニャコロン文化センターやジョン・ガラン霊廟といった象徴的な場所を訪れたようですが、大きな人の動きは見られなかったようです。ジュバ市や地方で井戸やトイレ建設などの人道支援事業を行う私たちの活動もこの日はお休み。現地連携組織THESO(テソ)の職員は自宅で小さく独立記念日を祝い、ピースウィンズ・ジャパンの同僚は魚とポショ(白トウモロコシの粉をお湯で練ったもの)を食べたそうです。

国際NGOの治安情報を提供するネットワークから、人道支援組織で働く外国人職員は治安の悪化も予想されるため、外出を自粛するよう言われていたため、シエラレオネ人の私も外出を自粛し、宿舎のテレビでサッカーのワールドカップを見て過ごし、夕食にはシチューとカロ(ミレットという雑穀の粉をお湯で練ったもの)を食べました。

公式行事がキャンセルされたことに対する大きな落胆はなく、和平が続いてほしいという人々の願いが見えた1日でした。ピースウィンズ・ジャパンは人道支援がいまだ必要とされる南スーダンで、今後も給水・衛生、そして保健支援を続けていきます。日本の皆さまのあたたかいご支援をお願いします。

ジュバ市駐在アルーナ・イブラヒム・ジャー

＊本事業は、ジャパン・プラットフォームからの助成金や個人・法人のみなさまによる寄付金により実施しています。